

どんな困難下でも本当に大切に実現可能なことを考え、 知恵をしぼり、前に進む校長でいよう

—第73回全連小研究協議会石川大会を誌上にて開催—

石川県立音楽堂にて10月14日(木)・15日(金)の2日間にわたり開催を予定していた第73回全国連合小学校長会研究協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一堂に会しての開催を中止し、誌上発表とした。また、大会前日に予定していた第239回理事会は、11月10日(水)に金沢市にて開催した。

大字会長は、校長の職務にとって研究を継続していくことは重要なことであり、石川大会での成果を今後の学校経営等に生かし、島根大会へつなげていこうと述べた。

大会主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

～ふるさとを愛し 主体的・協働的に学び 豊かな未来社会を創る子どもの育成～

1 会長あいさつ(要旨)

大字 会長

第73回全国連合小学校長会研究協議会石川大会が開催されることに、全国連合小学校長会を代表して心より感謝申し上げます。

一昨年度末より、私たちは新型コロナウイルス感染拡大という危機的な事態に直面した。感染状況の予測が極めて困難な中、学校の教育活動をどう進めていくのかを常に模索し、試行錯誤してきた。私たち校長は、先行き不透明な中、正解のない問いにどう立ち向かうのかを問われてきた。どのような状況にあっても、学校は全ての子どもたちが安心して楽しく通える魅力的な場所であってはならない。そのために、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の人々と協働的に議論を重ね、納得解を生み出す力を一人一人が身に付ける必要がある。そして、このことは今回の学習指導要領が育成を目指す資質・能力そのものである。どんな困難があっても思考停止にならず、本当に大切なことを考え、どうすれば実

現可能か知恵をしぼり、前に進む校長でありたい。全面実施2年目を迎えた学習指導要領の前文には、「これからの学校には、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とある。また、変化が激しく予測困難な時代において、子どもたち一人一人は自らの能力や可能性を信じ、学習したことを生活や社会の中で課題解決に生かせる力が求められる。全国連合小学校長会では、研究主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」と設定し、研究を進めている。本主題は、価値観の違いや変化を前向きに受け止めて、自らの力で未来を切り拓き、誰もが幸福を感じられる、ともに生きる豊かな社会を創り出すことのできる人間を育成する教育を実現するという強い思い

から設定されている。石川大会では、研究副主題を「ふるさとを愛し 主体的・協働的に学び豊かな未来社会を創る子どもの育成」とし、広い視野にたって社会に貢献する人間、世界に通じる人づくりを目指した学校経営の在り方や、校長が果たすべき役割と指導性について究明している。

結びに、本大会の開催に尽力された関係各位に深く感謝申し上げ、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念する。

2 大会実行委員長あいさつ（要旨）

永田 大会実行委員長

ここ石川県は、多彩な植生を見せる山々、変化に富んだ海岸線や河川等豊かな自然に恵まれ、世界農業遺産「能登の里山里海」として世界に認められている能登地方、そして、加賀百万石が息づき、藩政期の面影をとどめた美しい街並み、数多くの貴重な文化財を保存しているほか、優れた伝統工芸や伝統芸能を脈々と受け継いでいる加賀地方から成っている地である。石川県小学校長会、東海・北陸地区校長会の総力を結集して全連小石川大会開催に向け、準備を進めてきた。しかし新型コロナウイルス感染拡大により、痛恨の極みであるが、誌上発表となったことについて、会員皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

現代は、知識基盤社会への新たな進展、グローバル化や高度情報化の進行、世界に類を見ないスピードで進む少子高齢化等により、社会の変化が加速度を増している。さらに依然として続く世界的な新型コロナウイルス感染拡大により私たちの生命や生活のみならず、社会、経済等多方面に大きな影響を及ぼし、一層先行き不透明で将来の予測が極めて困難な時代になっている。この予測困難な時代に私たち一人一人、そして、社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。小学校教育においては目の前の事象から解決すべき課題を見つけ、主体的に考え、多様なものが協働的に議論され、納得できるものを見い出すなど正に現行学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求

められている。石川県においては、急速に変化する社会の中で、本県の文化や伝統を大切にしながら、「未来を拓く 心豊かな人づくり」を基本理念とし、心身ともに健やかな心豊かな人づくり、そして、未来を切り拓こうとする気概あふれる積極果敢な人づくりを目指した教育に取り組んできた。これらのことを踏まえ、京都大会から設定された主題は2年目となる。私たち校長が「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、より一層の情報と実践を共有し合い、研究を進め、新たな時代に対応した学校教育の在り方を理解する必要がある。

石川大会開催にあたり全ての関係者の皆様に深く感謝し、来年度開催予定の島根大会の成功を心より祈念申し上げます。

3 文部科学大臣祝辞（要旨）

文部科学大臣 末松信介様

昨年度全面実施となった新学習指導要領では、「生きる力」の理念の具体化を行うとともに、カリキュラム・マネジメントの充実や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善等を通して、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことを求めている。

また、昨年度からは「GIGAスクール元年」ともいうべき一人一台端末環境下での新しい学びとともに、学級編成の標準を段階的に引き下げる第一歩として、小学校第2学年における35人学級がスタートしているところである。

文部科学省としては、GIGAスクール構想によるICTの活用と少人数学級を車の両輪としながら、コロナ禍においても子どもたちの学びをしっかりと進めていく。

「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の主題の下、研究発表がなされる本大会の成果が、全国の子どもたちの確かな学力、豊かな心や健やかな体の育成と、今後の小学校教育の充実・発展の大きな指針になるものと期待する。

4 石川県教育委員会教育長あいさつ

石川県教育委員会教育長 徳田 博様
皆様には、日頃から校長としてリーダーシップを発揮され、小学校教育の充実・発展にご尽力いただいていること、「学校の新しい生活様式」の下、感染対策を一層徹底しながら教育活動を継続し、子どもたちの健やかな学びの保障に努めているご苦労に対し、深く感謝申し上げます。

グローバル化の進展やAI、IoTをはじめとする先端技術の高度化など、社会が大きく変化する中で、新型コロナウイルス感染拡大は学校生活に大きな影響を及ぼしている。さらに、いじめ問題、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加、教職員の急激な世代交代、多忙化等、教育現場では様々な課題が生じている。こうした先行きの見通せない時代に、学び続ける意欲、多様化する課題を主体的に解決できる力をもった人材を育てていくことが重要である。

本県では、「第3期石川の教育振興基本計画」を策定し、その中で目指す人間像として、ふるさとに誇りをもち、広い視野で社会貢献ができる人、意欲的で個性や創造性に富む人等を掲げ、「未来を拓く 心豊かな人づくり」実現のために様々な施策に取り組んでいる。この計画では新たに「GIGAスクール構想による学びの質の向上」や「新型コロナウイルス感染症と共生していく学校運営」「教職員の多忙化改善の推進」等を重要項目として掲げ、その具現化に向けて、積極的に施策を展開している。

大会主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の下、子どもたちが生きる力を育み、幸せな未来を創りだせるよう、全国の小学校教育の充実・発展に資する大会になることを願う。

「教育とは心に火をつけること」教員の熱意があってこそ教育が成り立つ。教育現場は人が全てであり、教員一人一人が財産である。「人材」があってこそ教育が輝くと感じている。

5 金沢市教育委員会教育長あいさつ

金沢市教育委員会教育長 野口 弘様
この度、「第73回全国連合小学校長会研究協議会石川大会」「第56回東海・北陸地区連合小学校長会研究協議会石川大会」「第64回石川県小中学校研究協議会金沢大会」が開催されることを心からお慶び申し上げます。

Society5.0時代が到来し、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じつつある今日、「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、全ての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実していくことが求められている。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響は広範囲にわたり、「ポストコロナ」を見据えた教育の在り方を模索していくことも今日の大きな課題となっている。

本市においても、今年度より全ての小学校で一人一台の学習用端末を整備し、「ICT版金沢型学習スタイル」に基づく実践を推進している。併せて、一人一台端末と統合型校務支援システム等のICT環境の下、児童生徒の学びを可視化し、学習指導、生徒指導等の質の向上を図るとともに、校務事務、学校運営等の学校業務全体のデジタル化を進め、効率的で快適な学校環境を創出する「KANAZAWAスマート・スクール・プロジェクト事業」にも着手しており、本市の学校教育も大きな転換期を迎えている。

このような中、誌上大会ではあるが、「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を大会主題に、また「ふるさとを愛し 主体的・協働的に学び 豊かな未来社会を創る子どもの育成」を副主題に掲げ、全国の研究実践の成果が発信・交流されることを心から願う。

本大会の開催にご尽力された関係の皆様には感謝申し上げますとともに、全国連合小学校長会の益々の発展と皆様の益々のご活躍を祈念する。

6 分科会の研究課題及び研究の視点

領域	分科会	研究課題	視 点 ①全国ブロック ②東海・北陸ブロック
I 学校経営	1 経営ビジョン	創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定	①未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンの策定 ②学校経営ビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進
	2 組織・運営	学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと運営	①学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくり ②組織を積極的に運営していくための具体的方策の推進
	3 評価・改善	学校教育の充実を図るための評価・改善の推進	①学校経営の組織的かつ継続的な改善に向けた学校評価の充実 ②教職員の資質・能力の向上に向けた人事評価の工夫
II 教育課程	4 知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント	①深い学びを実現するための授業改善の推進 ②知性・創造性を育む教育課程の編成 実施・評価・改善
	5 豊かな人間性	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメント	①豊かな心を育む道德教育の推進 ②よりよい社会を創る人権教育の推進
	6 健やかな体	健やかな体を育むカリキュラム・マネジメント	①生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てる教育活動の推進 ②健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進
III 指導・育成	7 研究・研修	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進	①学び続ける教員像を目指す教職員の資質・能力の向上を図る研究・研修体制の充実 ②「チーム学校」の運営意識をもたせる研修の推進
	8 リーダー育成	これからの学校経営を担うリーダーの育成	①学校教育への確かな展望をもち、優れた実践力と応用力のあるミドルリーダーの育成 ②社会の変化に主体的にかかわり、自ら学び続ける管理職人材の育成
IV 危機管理	9 学校安全	命を守る安全教育・防災教育の推進	①自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進 ②家庭や地域社会との連携・協働を図った組織的・計画的な防災教育に関わる取組の推進
	10 危機対応	様々な危機への対応と未然防止の体制づくり	①いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり ②教職員の高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり
V 教育課題	11 社会形成能力	社会形成能力を育む教育活動の推進	①社会の発展に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進 ②地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育むキャリア教育の推進
	12 自立と共生	自立と共生の実現に向けた教育活動の推進	①子どもの自立や社会参加に向けた特別支援教育の推進 ②多様な他者と協働する資質・能力を育む教育の推進
	13 社会との連携・協働	家庭や地域等との連携・協働と異校種間の接続・連携の推進	①家庭や地域等と連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進 ②成長の連続性を生かした異校種間の接続・連携の推進

大会宣言

全国連合小学校長会は、結成以来、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ね、着実にその成果を上げてきた。

本大会では、昨年の第72回京都大会から2年目となる大会主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の実現を目指し、これまでの研究成果と課題を引き継ぎ、組織をあげ鋭意努力してきた。

これからの社会は、Society5.0の実現に向けて急激に変化するとともに、グローバル化も一層進んでいく。さらに、少子高齢化・人口減少社会を迎え、労働環境も大きく変わっていくことになる。このような中、我が国では、今後の社会の方向性として「自立」「協働」「創造」の三つの理念の実現に向けた生涯学習社会の再構築が求められている。教育においては、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するため、「社会に開かれた教育課程」を実現するカリキュラム・マネジメント等の確立を図り、幅広くグローバルな視野で教育活動を創造しなければならない。また、今日的課題として、東日本大震災をはじめとする災害からの教育復興に向けた被災各地における教訓と取組を共有することや、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況である中、感染予防策の徹底を図り、子どもの健康安全の保持や学習機会と学力を保障することにも継続的に取り組んでいかなければならない。

こうした社会の変化や国の動向を注視しつつ、自立的に生き抜くために必要な「生きる力」とふるさととの自然・文化・伝統を愛し、様々な人々とのつながりの中で、自らの人生や社会をよりよくしていこうとする思いを確実に育むことが学校教育の責務である。さらに子どもたちには、持続可能な豊かな社会の創り手となることが求められている。そのため、小学校教育においては、自ら課題を見つけ、主体的に取り組み、他者と力を合わせ解決する力と実践的な態度を育み、広い視野にたって社会に貢献できる子どもを育成することが重要である。

私たち校長は、石川大会における副主題「ふるさとを愛し 主体的・協働的に学び 豊かな未来社会を創る子どもの育成」を基盤に据え、小学校教育の推進に全力を傾注し、国民の信託に応えようとするものである。

ここに、第73回全国連合小学校長会研究協議会の総意に基づき、次の決意を表明しその実現を期する。

記

- 一、自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
 - 一、ふるさとを愛し 主体的・協働的に学び 豊かな未来社会を創る子どもの育成
 - 一、「生きる力」の育成を目指した創意工夫ある教育課程の編成 実施・評価・改善
 - 一、道徳教育や人権教育を中核とし、命の尊厳を重視した心の教育の一層の充実
 - 一、主体的に判断・行動し、命を守る子どもを育成する防災教育の推進
 - 一、学校の自主性・自律性の確立と家庭・地域等との連携・協働による教育活動の充実
 - 一、新型コロナウイルスの感染症対策を含めた安全で安心できる教育環境づくりの一層の推進
 - 一、校長自らの研鑽と、教職員の資質・能力の向上と学校の教育力向上を目指す研究・研修の推進
 - 一、教育の質を向上させるための「学校における働き方改革」の推進
- 右、宣言する。

令和3年10月15日

第73回全国連合小学校長会研究協議会石川大会

第239回理事会を石川県金沢市で開催

全連小75周年記念事業実行委員会設置規程及び特別会計について承認

11月10日（水）午後1時開会

ホテル金沢

全体進行 小正 庶務部長

1 開会のことば

上山 副会長

2 会長あいさつ

大字 会長

〈はじめに〉

本日は石川県金沢市にお集まりいただき感謝申し上げます。石川県校長会の皆様は、参集しての全国大会開催のために何度も企画を見直し尽力してくださった。改めて御礼を申し上げます。

校長は広い視野で多くのことを吸収し、目の前の教育活動の一つ一つ改善していかなくてはならない。もっと皆で集まっているいろいろな話をしていきたい。

〈小学校の現状についての危惧〉

小学生の不登校の出現率が1.0%に上昇していたり、「学校に行くのは楽しい」と答える子どもが減少していたりすることを重い事態と受け止める。校長としてどう向き合うか真剣に考えたい。教員も学校行事の中止や教員間のコミュニケーションの希薄さから閉塞感を感じていないか。「教育は人なり」であり、先生が楽しく元気に学校に通わなければ楽しい学校はつれないと思う。

学校でなければできないことを、何かのせいにしてやらず、そのために子どもが「学校が楽しい」と実感できないとしたら、学校教育の危機だと思う。目の前の教員と向き合い、子どもをしっかりと見つめ、楽しく魅力ある学校づくりを全国の校長が心一つにして進めたい。

〈国の動向～文部科学省概算要求から〉

○35人学級・高学年における教科担任制

35人学級は、来年度、3年生が対象、定数改善は3,290人。教科担任制については、2,000人の定数改善、4年間で8,800人の定数改善要求である。財務省は人を増やさず工夫で何とかできるのではと厳しいが、その理屈がずっと通ってきたために現在の課題があるのではないか。

○スクール・サポート・スタッフ（SSS）の配置

都道府県が予算を付ければほとんどの学校にSSSが配置されるはずである。予算は国が3分の1、都道府県が3分の2を負担するため、都道府県が予算を付けなければ学校に下りてこない。各校長会で強く声を上げてほしい。

○GIGAスクール構想の着実な推進と学びの充実

「GIGAスクール運営支援センター整備事業」が始まり

市町で手を挙げられる。ICT支援員等いろいろな目的に使える。自治体間格差の声が多いGIGAスクールに関しては、研修と支援が重要な2つの柱になる。様々な予算を活用し、各地区での充実に努めていただきたい。

〈おわりに〉

本日の理事会の議事として、令和5年度の「全連小75周年記念事業」がある。全連小が長い歴史の中で日本の教育を引っ張ってきた。全国の会員の皆様と新たに気持ちを一つにして進んでいく事業であるので、ご理解とご協力をいただきたい。充実した理事会になるよう、よろしく願います。

3 報告

(1) 会務・事業・活動の概要 小正 庶務部長

(2) 会計 西山 会計部長

・基金管理状況 ・負担金納入状況

(3) 研究大会について

・石川大会について 永田 石川県会長
誌上発表への変更の経緯説明及びお礼

・島根大会について 越野 島根県会長
開催日：令和4年10月13日（木）・14日（金）
参加人数を半分にしての開催予定、併せて全体会場も変更

(4) 要望活動について 荒川 対策部長

○令和4年度文教施策並びに予算に関する要望



事項

7月8日に「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算」について、文部科学省、財務省、総務省に対する要望活動を行った。

大項目は、次の11項目である。①我が国の義務教育の質を高めるための教育費の増額措置 ②新型コロナウイルス感染症防止対策のための一層の整備 ③「GIGAスクール構想」の推進のための一層の整備 ④震災復興に関わる人的配置の充実及び施設・設備・教材等の迅速な整備 ⑤子どもと向き合う時間を確保するための教員定数改善や人的措置、諸条件の整備 ⑥学校教育への信頼を一層高めるための教職員の資質向上を図る施策 ⑦豊かな心や健やかな体の育成に向けた教育を充実させるための施策 ⑧学校の教育活動が円滑に行われるようにするための施設・設備・教材等の整備・拡充を図る施策 ⑨学校、家庭、地域が一体となって教育を推進するための家庭や地域の教育力充実に向けた施策 ⑩教育の機会均等を保障するためのへき地・小規模校の教育をさらに充実させる施策 ⑪全国の教員が安心して教育に専念できるようにするための年金制度や教員の処遇の維持・改善を図る施策。

○文部科学省への要望

新型コロナウイルス感染第5波の影響を受け、各学校がその対応に追われていた。そこで「新たな新型コロナウイルス感染が続く中での小学校における対応についての要望書」を作成した。内容は①分散登校やオンライン授業の対応等による多くの教職員の負担増に対する改善に向けた人的及び物的な支援 ②オンライン授業に関するICT支援員等専門スタッフの配置 ③各学校の通信環境の整備 ④各家庭の通信環境の整備 ⑤デルタ株等新たな新型コロナウイルス感染拡大に伴う新たな基準やガイドライン等の見直し ⑥学校は安全であるというメッセージの発出の6項目とした。

この要望書を10月7日に文部科学省初等中等教育局長へ直接渡すことができた。

○教員免許更新制の発展的解消について

10月1日に文部科学省から、「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの実現に

向けて 審議まとめ」が出された。

本会は、それに対して意見書を提出した。内容は、受講に際して経済的・物理的負担があり、また、現職の教師が未修了により免許が失効し突然失職することなど課題が多くあることから、抜本的な見直しを求めた。また、発展的解消の具体的な内容については示されていないが、今後、新たな研修体系を構築する際は、これまでの研修のように悉皆で受講させるのではなく、教師自らが資質・能力を高め取り組める内容にしてほしいことも求めた。小学校では校内研修や地区の教育研究会が充実している。こうした取組についても研修履歴に反映させる制度設計を求めたい。また、「研修受講管理システム」が導入されていない都道府県が23.5%あることから自治体間格差が生じないように導入されていない地域への支援を期待している。

(5) 震災等災害被災県より

①被災3県小学校長会長との合同連絡会について

荒川 対策部長

7月8日に被災3県小学校長会長と正副会長・常任理事とで合同連絡会を行った。今後も、震災を風化させない取組を継続させていくことなどが確認された。

②岩手県沿岸被災地区の現状と課題について

小山田 岩手県会長

平成30年に陸前高田市立高田小学校の新校舎が完成し、県内23の被災校全ての改修・新築工事が終わった。被災地区では児童数の減少が著しく、減少率が県全体では21%であるのに対し、陸前高田市は49%である。山田町は、学校数が9校から現在は3校、大槌町は5校から2校と減少している。

現在は、被災後に生まれた児童がほとんどとなった。しかし、震災の直接の影響ではないが、養育時の保護者の極度な不安定さにより、児童の落ち着きのなさや心理的な不安定さなどの問題行動が見られる。

教職員については、人事異動により、入れ替わりも大きいため、被災当時の状況を学ぶ機会を設定するなどしている。また、復興加配の減少により、スクールカウンセラー等の訪問回数が減っている課題もある。

4 議事 議長 阿久澤 副会長

(1) 全連小75周年記念事業実行委員会設置規程について 小正 庶務部長
全国連合小学校長会75周年記念事業実行委員会設置規程について提案され、原案どおり承認された。

(2) 特別会計の支出について 西山 会計部長
全連小75周年記念事業として前回（50周年記念事業）より特別会計Ⅰに留保されていた資金を実行委員会に移管することが承認された。

5 情報交換 司会 荒川 対策部長

(1) 第73回石川大会について（石川県から研究の報告） 端 石川大会研究部長
大会主題は「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」。前回の京都大会の成果が素晴らしいものであったので、それを継承し生かしていくことが大切であると考え、石川大会の副主題を「ふるさとを愛し 主体的・協働的に学び 豊かな未来社会を創る子どもの育成」とした。

その設定理由として、人工知能（AI）台頭、そして、いじめ、不登校等、多岐で今日的課題の山積という現状がある。しかし、先端技術のみに目を向けるのではなく、ふるさと自然、文化、伝統を愛すること、人のつながり、人生・社会をよりよくすることが大事であると考えスタートした。そして、本大会のキーワードを「能登の里山里海の豊かな自然」「加賀百万石文化」とし、社会で共に生きる実践的な態度を育む世界に通じる人づくりを目指していくこととした。

研究を進めていく中、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうようになった。先が見えない学校現場での必死な取組、それが石川大会での全国からの発表原稿にもはっきりとした形で表れた。全13分科会中12分科会でコロナ禍に関する文言があった。ここが今までとの大きな違いである。全都道府県が同じ困難にどう立ち向かっていくのかということを協議する分科会の実施方法が大きな壁となった。

そこで、誌上発表者と参加者を紡ぎ合うため、選択式アンケートを行い、その結果を基に協議ができると考えた。貴重なご意見をいただいた校長先生方に心から感謝申し上げます。

成果としては、貴重な誌上発表をいただいたこと、参加者全員に選択式・記述式アンケートを実施してのデータ化したこと、コロナ禍での新たな分科会運営の提案をできたことが挙げられる。

(2) 魅力ある学校づくりについて — 教員の養成・採用・研修から考える —（グループ協議）
基調提案 植村 調査研究部長
いつの時代においても教員の資質・能力の向上は重要なことである。しかし、近年、教員養成系大学の志願者の減少や各都道府県の教員採用選考の倍率の低下が指摘されている。

「魅力ある学校づくり」を考えた時、教員の人材育成は喫緊の課題であり、単に学校だけで対応できる課題ではないと捉えるが、この課題の解決には、校長としてこれからの人材育成の在り方を考えていくことが必要である。

そのためには、まず、採用前の「養成」という視点から大学との連携が急務である。また、採用については、教職の魅力発信し、採用倍率を上げていくこととともに人間性豊かな人材を採用できるような制度設計も必要になる。さらに採用後の研修を通して、教員としての資質・能力を磨き、専門性を高める研修の在り方を考えていくことが必要となる。

このことから、本グループ協議においては、人材育成を養成・採用・研修の3段階から具体策を模索し、自校のみならず地区の教育委員会、教員養成系大学への働きかけを行い、魅力ある学校づくりにつなげていきたい。

以上の基調提案を受け、各グループにおいて活発な意見交換が行われた。

6 連絡・その他

(1) 広報部より 平川 広報部副部長
「教育研究シリーズ」「特色ある研究校便覧」「小学校時報」「全連小速報」「HP」等について、校長先生方のニーズに応えられるよう、なお一層の内容の充実に努めていく。

(2) その他 小泉 事務局長
令和4年度海外教育事情視察は中止とし、令和5年度の実施を目指す。

7 閉会のことば 上山 副会長